

## < 県議会（各会派） >

日 時：令和2年11月12日（木）13時15分～14時15分

会 場：熊本県議会棟 全員協議会室

参加者：9名

### 【鎌田聡県議】

この間、意見を聴く会で御意見を聞かれてきたと思いますけれども、その途中段階で、知事が「12年前の民意と比べて大きく動いていると感じる」と御発言なさっていることについて、何を根拠にそういうことを言われてるのかと思っております。

私も、ボランティアも含めて被災地に何度も足を運んでおりますけれども、誰からも「ダムがあれば救われた」とか、「ダムをつくって欲しい」などという発言は一切聞いたことがございません。意見を聴く会の中の議論はマスコミの報道を通して見ておりますけれども、その中では、やっぱり12年前もダム建設を容認されていた方が多分「ダムを」と言われてると思いますし、反対されていた住民の皆さん方がやっぱ反対されているという状況ではないかなと思っております。

私は動いているのは民意ではなくて、知事の考えが動いてるんじゃないかなととらえております。一部報道で昨日、川辺川ダム容認というような見出しが出ておりましたけれども、別に驚きはしませんでした。こういう考えで知事はこの間の取り組みを進めていらっしゃるんじゃないかなという思いをしております。

それはどういう意味かと言いますと、検証委員会の進め方、いろんな方々から意見を聞いて欲しいとか、異論を持つ人を含めて欲しいとか、そういうお話もあったわけですが、結局は、流域の首長さん、いわゆる川辺川ダム建設促進協議会の皆さんと国交省、こういったメンバーで議論を進めておりますし、結論づけのやり方もですね、川辺川ダムがあったらどうなるのかという議論に終始していたととらえております。

ダムによらない治水も、私はこの前、代表質問で徹底的に10案を追求して欲しいということを申し上げておりましたけれども、確かにその検証もやられておりますけれども、1ページと半ページぐらいでそれぞれが終わっていて、川辺川ダムの検証についても写真入りで詳しくやられてることについて、やっぱり違和感を持っておりますから、そういうことも含めて、民意を何か動かそうとしてこられてるんじゃないかな、というふうなんです。これ私の意見ですけども、そういうふうにとらえておりますので、そのことをまず申し上げておきたいと思っております。

治水対策ですけども、私は被災者の皆さんから、まずはこの生活再建、これに力を入れて取り組んで欲しい、ということをお願いしております。住まいの再建とか、なりわい補助金も、全ての業種をカバーできてないと思いますから、そういったところの取組みだとか、あと治水については危険な場所からどう移転をさせていくのかだとか、宅地を嵩上げしていくのかとかですね。

今話を聞くと、今はダムのことを考える余裕がないというのが、これが御意見だと思っております。ですから、今やれることをしっかりとやって、ダムの議論はその後に、しっかりと本当の意味で民意を捉えてやるべきじゃないかなと思っております。

やっぱり、まずは、皆さんが望んでること。ダムをやりますと、地域を分断したり、翻弄したり、そういった問題をまた起こしかねませんので、今も皆さんが同じく求めているのは、河床の掘削や築堤だとか、これまで話を聞いておられますと、本流とか支流を含めた堆積土砂の撤去、これも急いで欲しいということをお聞かせしております。人吉地点での河道掘削は15年以上やられてないという話もございますので、まず、皆さんが共通に思うことをしっかりとやること、荒れた山の整備も意見が出されておりますけれども、そのことをまずやっていただきたいと思っております。

もう一つ検証されていないのが、瀬戸石ダムなんですよ。瀬戸石ダムがあることによって、あれゲート全開にしておりますけれども、ゲートを開けても3分の2の流れを止めてるんですよ。そういったこともしっかりと、この前の検証委員会で全く触れてありませんので、そういった検証が行われていないということでもありますから、そういったところの検証も、しっかりと進めていただきたいと思っております。ダムはちょっと置いておいてと言うとあれですけど、まずやれることはしっかりとやっていただくということが必要だろうと思っております。

流水型ダムを容認というような報道も出ておりましたけれども、それが環境に影響ないかという、前回もそのダムを作ることによって、あそこには絶滅危惧種のクマタカも生息しておりますから、そこでの環境への影響はもちろんあるわけです。

もちろんそれから下流への、コンクリート等の構造物を作ることによる影響というのは必ずあるわけですし、そしてまた、流水型と言いながらも、そこに流木が詰まってしまって危険な状態を生み出しかねない。こういったところの危険性も、しっかりと検証をしていかなければならないと思っております。

市房ダムにも2万トンぐらいの流木が引っかけたわけですから、あれが同じように、川辺川の方で行われた場合に、ダムの危険性がどうなのかということもしっかりと見ていただきたいと思っております。

いずれにしても、民意をしっかりと正確に把握するのであれば、今言いましたように、まずやれること、みんなが同じ思いで望んでることをしっかりとやった上で、ダム問題については、これは本当に皆さんの思いがそれぞれあると思っておりますから、私はこの際、流域住民による住民投票をやっていただいて、そこでしっかりと正確に、民意を把握していただいた上で、川辺川ダムをどうするのかということをお結論づけていただきたいと思っております。

冒頭言いましたかわかりませんが、川辺川ダム建設には反対をしておりますので、そういった流域住民の意向に沿った対策をですね、しっかりと講じていただきたいと思っております。

#### 【磯田毅県議】

3点について言いたいと思っております。

まず、昨年11月議会のときに、私はこの球磨川豪雨を想定したような質問をしたわけなんですけれども、それで、全然進まなかったことに対して、実はがっかりしていたわけなんです。

今回、9月議会で、私はこれを取り上げたわけなんですけれども、今年の7月豪雨と

同じような規模、それ以上の規模の洪水が将来起きないという保証はないということを書いたわけなんです。沖縄近海の表面海水温が30.7度という最高を記録したということを書きましたけれども、これは冬春の間にどれだけ温度が下がるのか、ということを書くと、やはり、下げ方が同じにしても、一番下がった時点での温度が高いまま、また夏に突入するということからすれば、いかに私達が2050年に温室効果ガス排出ゼロを目指しても、温度上昇は避けられない状況です。

この高い海水温によって水蒸気が大量に供給されて、線状降水帯が、特に九州地方で活発化する可能性が非常に高いと私は思っています。ですから、異常気象時へのこういったものですね、今回だけの対応で果たして済むのかということを書き、まず一つ思っています。

そして、流水型ダムについて取り上げてありましたけれども、実は本流にかかった10箇所の橋が落橋したわけなんですけども、これはやっぱり流木、瓦礫等が詰まって、同じようなことが例えられるんじゃないかと私は思っています。あれだけ橋脚が長い、広いところでも、詰まって橋が落橋するということですので、このことも抜本的対策という、やはりダム云々の前に、山の管理をしっかりと進めていくことも必要だと言えらると思います。

そして、堆積土砂についてですけれども、球磨川の支流や佐敷川に堆積している非常に大量の土砂等についての撤去を最優先にして、そして来年の出水期までにこの土砂撤去が進むのかどうか。これは、可能なのかということも含めてお聞きしたいと思っています。

また、高台が足りない。特に坂本地区あたりでは、新しい住居を作るには高台が足りないということであれば、堆積した土砂の土捨場を、これを使って高台を作るという一つのヒントになりはしないかと私は思っています。

以上です。3件について、思ったことを述べてみました。

#### 【岩田智子県議】

知事が本当にたくさんの場所に行かれて、住民の意見を聞くということで、動かれました。

その中に、団体の長の方々にお話を聞くということもあったと思うんですが、まず、知事がお話を聞かれた中にですね、実際に被災をされた、本当に命は助かったけれども、家はなくなってしまったとか、そういう方々はどのぐらい、その中でいらっしゃるんですかね。ちょっとお尋ねなんですけど。

#### 【水谷理事】

正確に数は数えておりませんが、自身も被災したと、床上まで水が来ましてとかですね。そういった方は区長さんとか含めて、本当に数え切れないぐらいおられました。いわゆる被災者の方がお見えになってるんだなという印象を受けました。

#### 【岩田智子議員】

ありがとうございます。私はボランティアに入ったり、いろんな方にお話を伺ったりする中で、積極的に言えばダムを作りたいということをおっしゃる、私だからかも

しれないけど、おっしゃる方が誰一人おられない。10人くらいおられたら半分ぐらいはね、やっぱりダムがあった方が安心だっていうふうに言われる方がいらっしゃるんじゃないかなと思うけど、本当に一度も聞いたことないですよ。

そんなことが、今日の説明もそうですけれども、ダムは逃げる時間を稼ぐことができるとか、そういうことを言われましたけれども、どうしても、私が聞いている住民の皆さんの声とちょっと違うんじゃないかなあ、という気持ちが私の中にはあります。これは意見として聞いておいてください。

#### 【山本伸裕県議】

最初に質問したいんですけど、ダム容認の記事が報道されまして、それは何ていうか、実際にはまだ検討中なんだというような御説明だったんですけど、複数の新聞が一面で大々的に報じているわけですね。その中には、こういう文章があります。「複数の関係者への取材で判明した」と。ということは、その複数の関係者の間で何らかの場で、ダム建設の方針が確認されたということではないかと思うんですけど、どういう場で、いつ、確認をされたんでしょうか。

#### 【蒲島知事】

私がどのような決断をしたかということが、一番大事ですよ。先ほど言いましたように、その前に報道されてるということですから、新聞社の方々に、御確認いただきたいと思います。

#### 【山本伸裕県議】

「複数の関係者への取材で判明した」という表現があるわけです。だから、そこについては、皆さん自身がよくわかってるんじゃないかと思うんですけども。私個人的には、皆さん人間的には信頼してます。ある職員の方が「県民に恥じるような仕事はするわけにはいかん」とおっしゃるのを聞いたことがあるので、すごく信頼してるんですけど、こんなやり方はですね、不信を招くと思うんですよ。

被災者、被災地の人達が、まだその意見を聴く会が終わってない段階ですよ。この場が最後かもしれないんですけど、私達も県民の代表ですからね。意見を聴く会が設定されてる前から、こういう報道が出るわけです。もしかしたらこの意見を聞く会がアリバイ作りで、帳面消しでやられてるんじゃないかと、最初からそういう既定方針がもう決まって、それで、予定通り19日全員協議会で表明するというような方針が決まっているんじゃないかと思わざるをえないじゃないですか。そうじゃないんだったら、19日の協議会をやるという方針は、白紙にすべきですよ。

そして知事は、知事会見でこういうふうにおっしゃってます。「これまでの検証結果、意見聴取、こういうのを踏まえて、具体的な治水対策を協議会で検討していく」と。そして、「国が示した案とは違う考え方を持った専門家などから、ヒアリング等をする考えはないのか」という記者からの質問に答えて、「協議会の場でそういうふうな方向で考えている。」「球磨川治水協議会の場でヒアリングを行うということを当然考えてる。」とおっしゃってるわけですよ。

だから、国の考え方とは違う専門家の意見を協議会の場でヒアリングを行うと知事会見でおっしゃってるわけです。それはまだ実現してないじゃないですか。そういう段階で、19日に全員協議会をやるんですか。

#### 【水谷理事】

今日の資料にも書いておりますけど、2ページの下の方ですね。球磨川流域治水協議会の目的、実施事項、構成についてですね、一番下に、※印で「必要に応じて学識経験者等の意見を聞く場を設けることができる」と本協議会ではなっております。

ですので、まだ1回会議を開いたばかりで、今後こういうものを設けることができるということになっておりますので、構成員の国や流域の市町村長さんと一緒に、どういった方から聞きましょうかという協議になると思いますけれども、こういうことをやるということを知事は、会見で説明したと思います。

その前にですね、昨日ですけども、学識経験者の方、三名の方から御意見を聞きました。その中には、多様な御意見がありまして、例えば、ダムでは防げないんじゃないかとおっしゃる先生もおられましたし、流域治水が必要だと、また、ダムは有効だという方もいらっしゃいました。

いろいろな意見を聞いて、知事は自らの考えを発表すると言っておりまして、別に流域治水協議会の中で、そのことをやっていくということをおっしゃったわけではないんですね、当然。知事は自分の考えをまとめるために、学識経験者からお聴きします。また、いろんな県民の方の御意見をお聴きします。その意見を知事自らが協議会で知事の口を通して発表していきますと。実際、第一回目はそういった形で、15日から御意見を聴く会を始めて、27日に第一回目の流域治水協議会がありましたので、それまでにいろいろな意見を聞かれてましたので、協議会などで披露されました。これが経緯でございます。

#### 【山本伸裕県議】

はい。

これから、私の意見ということでも言わせていただきます。

もう1回言いますけど、記者会見の場で、質問はですね、「国が示した案とは違う考え方を持った専門家などからヒアリングをする考え方はないのか。」というふうに質問があって、「球磨川治水協議会の場でヒアリングを行うということを当然考えている。」というふうにおっしゃってるわけです、知事は。だからそれは、球磨川治水協議会で違う考え方を持った専門家の方々も参加して、協議会を開催すべきだということですよ。そういうことを、一つ申し上げたいと思います。

それからですね、私達は県に対して御要望も出しておりますけれども、この球磨川治水対策の前提となっている人吉地点で洪水被害6割軽減できたという議論ですね。その根拠となっているのがピーク流量の話なんですけど、その推定のピーク流量についての重大な疑問を私達は持っております。このデータそのものが異なってくると、川辺川ダムがあればかなり水害が軽減できたという、そういう立論自体が揺らいでくるわけですよ。だからそういう点では、いろんな意見、専門家の意見が違ってるわけですから、

その点についても、きっちりと公平性、科学的客観性を担保した上で検討すべきだ。これはだからそういう点では治水検証委員会を、やっぱりそういう方々も入れた形でやり直すべきじゃないか、というようなことを、意見として申し上げたいと思います。

それから二つ目に、協議会では、当然、ダムあり、ダム容認の治水のあり方ということを選択肢として考えるのであれば、ダムによる治水の限界、或いは危険性、弊害、環境への影響だとか、或いは産業、観光、経済、地域経済への影響であるとか、そういったものも当然、検討すべきです。それをしなければ、単に治水の問題だけで議論するのは間違いだ。

なぜかと言えば、12年前知事がダムによらない治水を決断したのは、その当時も、ダムによる治水が有効な手立てだというようなことは認識しておられたわけです。にもかかわらず、なぜダムによらない治水を選んだのか。それは球磨川が宝だ、守るべき宝だと、住民の財産を守らなければならない、球磨川そのものが地域にとって守るべき宝だ、そういう判断をしたからダムによらない治水を決断されたんですよ。だから、単に治水という面だけで、今回、ダムがあればという議論自体も私達は疑問持ってるんだけど、それだけでなくって、ダムを造った場合にどういう弊害、地域経済への影響、観光への影響、或いは危険性、リスク、想定を超えるような雨が降った場合にどうなるのか、そういった議論をちゃんとやるべきですよ、協議会で。でないとその議論自体が不十分なものになってしまう。

それからもう一つ言いたいのは、復旧・復興プランの前提になると思うんですよね、この治水対策が。ただその復旧・復興プランというのは、何カ年計画で考えておられるんでしょうか。

普通は大体一般的には3カ年計画とか、5カ年計画とかというのが復旧・復興プランだと思うんですよ。実際にやっぱりこの豪雨災害を受けて、どういう復旧・復興を進めていくのかというのを考えたときに、そんな悠長に長期的なプランではなくて、やっぱりこの1, 2, 3年の間にどれだけ復旧・復興させるのか、というようなところでのプランを作るのが必要だと思うんですよね。

その中で、治水対策を位置付けた場合にですね。例えば2年後、3年後、或いは5年後、ダムができてるのか、存在するのか。私は今から、例えば設計測量、或いは環境アセスメント、漁協への同意だとか、住民への説明だとかというようなことを考えていかなければ、相当時間がかかると思います。ダムを含む治水というのを決断するのはスピードが早かったかもしれないけれども、完成するまでは一番時間がかかるかもしれないですよ。

その時に復旧・復興プランでですね、3年後どういうところまで復興・復旧させるのかと。目標を立てるような時にですね、治水はどこまで向上させるのか。存在もしてないようなダムを前提に議論するわけにはいかないですよ。極端に言えば、来年また大変な水害が発生するかもしれない。線状降水帯が発生するかもしれない。今回のような水害がまた来年にも襲ってくるかもしれない。それまでにどうやって住民の安全を守るのかという、目標、計画は当然立てないと駄目ですよ。だから、今、球磨川の中に、まだ災害の残骸がですね、例えば落橋した鉄橋であるとか、いろんなものがありますし、土砂が堆積しまくってるわけですよ。今度雨が降ったらどうなるのか、住民の方達は心

配してるわけですよ。だから、急いでそういう障害物を除去しないとイケない。いつまでやるのか。そして、ダムが存在しない間は どうやって住民の安全を守るのか。流下能力をどこまで引き上げるのか。河床掘削、堤防強化、かさ上げ、こういうのをいつまでにどれだけやって、どれだけの流量を改善させるのか。

その目標を復旧・復興プランで作るべきですよ。ダムが存在しない間でもその目標を立てて実行しなければ、それは無責任だということを強調したい。

#### 【西聖一県議】

9ページのグラフ、図なんですけども。市房ダムについて住民の方の恐怖心を和らげるような図で説明されてますが、下のグラフにですね、真ん中の左中央ぐらいに46%カットの水色になってる部分と、右側の薄緑の部分がありますけど、これ本当、数学的にいけば、流量ですから、同じような升目の流量にならなくてはならないと思うんですけど、単純にこの升目だけでいくと、水色の分は6から7マス、右側の方は3マスか4マスくらいしかない。見せ方として、ダムで抑えているような感じを与えるので、ちょっとおかしいんじゃないかなと思います。

それから、これは46年時の雨の降り方ですが、一波で終わってますけど、これからの線状降水帯では、また第二波、放流してもまたなおかつ降るっていうのが、想定されるわけですよ。そういうところで、地元の住民の方は、ダムがあるからずっと怖いなと。仮に一波で終わったとしても、ダムはずっと放流し続けるわけですから、下流域の方はもう、雨がやんだから、本来的には水害がもう終わると思っていたのが、ダムがずっと放流を続けるというその不安的なものをずっと抱えられてると思うんです。そういうところが何かちょっと、やっぱり反対する人の大きな理由じゃないかなと思うんですけども。

特にダムに関する、余りにもちょっと安易な見方があるんじゃないかなと私は思います。

#### 【水谷理事】

先ほど山本先生がおっしゃられたプランの考え方、考えてることを少しお伝えいたします。

プランというのは、当然、長期的なことも考えます。書いておりましたとおり、将来に向けて持続可能な地域にしていきたい、という長期的な考えも必要だと思いますけど、先生おっしゃる通り、目の前のこと、掘削をどうするとか、そういったこともしっかり取り組んで参りますので、両方視野に入れて検討作業を進めているところでございます。

#### 【濱田大造県議】

私も現地に何度も足を運びまして、甚大な被害を目の当たりしました。死者が65人、いまだに行方不明者もいらっちゃって、全半壊の家が8,000棟以上ですね。

もう本当に驚きをもっていろんな方ともお話ししたんですが、やはりダムがあったら、いわゆる被害が軽減できたんじゃないかっていう声が少なからずありました。

流水型ダムを作るんじゃないかという報道もされてますが、県議会の他の同僚議員と

も話してましたら、7月以降、やっぱりそういうダムというのが必要じゃないかっていう話は、どの議員もしていたというのは事実としてあったと思います。

そして私は熊本市内選出の議員ですので、本来やっぱりそこに住んでる地元の方達の意見を尊重すべきだと感じているんですが、流水型ダム、多分いろんな問題があると思うんですが、川辺川ダムが仮にできたとしたらですね、流水型だろうが何型だろうが、最大のダムになると思います。

莫大な建設費用がかかるんですが、私は合理的に考えるならばどうせダムを造るなら、多目的ダムでやるべきじゃないかなと個人的には考えてます。

というのは、いろんなことが考えられますが、県費、県民が負担する税金ですね、これが治水だけの流水型のダムを作った場合、ものすごい負担になるんじゃないかなと。ですから先人達はダムを作る時、なるべく参加者を募って多目的にしてきたという経緯が、この国ではあると思います。そうすることによって、県民の負担が軽減、まあ補助金が、通常だったら国が、2分の1、県が4分の1、周辺市町村が4分の1というのが基本だと思うんですが、ケースバイケースだと思うんですが、これはもう、単一の治水だけ、しかも、洪水が起こりそうな時だけ閉めて、治水、貯水すると。納税者の立場から、これのためだけに九州で最大のダムを造っていいのかという、素朴な疑問が生じる。

流水型のダムありきっていう議論があるのかないのかは別にして、やっぱりいろんなもっと広い視点に立って、どういう形のダムが本当に正しいのか、正しいんじゃないかって、まあベターなのか、そして、県民の負担がどれだけ軽減できるのか。負担が少なくて、最大の効果を発揮できる、観光事業とかも影響を受ける。これもどこまで自然に優しいダムを造れるかってのもあっていいと思いますね。そういう費用面も含めて、多目的だったらどうなりますよとか。電源開発とかもう離れてますが、もう一回参加というのがあるのかないのか、やっぱりそこまでね。農水用の水も本当にいらないのかどうか。また、本当いろんな観点から、費用面も含めて、提示していただかないと、もう、こうなりましたよっていうので、同意してください、というのでは賛成いたしかねるっていうのが私の考えです。以上です。

(以 上)